

環境厚生常任委員会

日 時 平成29年4月24日（月）
午後1時30分 ～
場 所 第3委員会室

1 開 議

2 案 件

(1) 行政報告（健康福祉部）

- ①保育所の統合について
- ②別院保育所について

(2) 子どもの貧困について

(3) 行政視察について

3 その他

- 次回の委員会について

平成29年4月24日
環境厚生常任委員会

－ 提出資料 －

1. 子どもの貧困について . . . (こども未来課)
資料1～3頁

2. 本梅・東本梅保育所の統合について . . . (保育課)
資料4頁

3. 別院保育所石積み崩落について . . . (保育課)
資料5～7頁

健康福祉部

出席者

亀岡市健康福祉部

子育て支援担当部長 辻村 修二

こども未来課長 森岡 浩之

保育課長 阿久根 由美子
(資料4頁、資料5～7頁の説明者)

保育課 副課長兼保育幼稚園係長事務取扱
大倉 武文

こども未来課 こども支援係長 服部 哲也

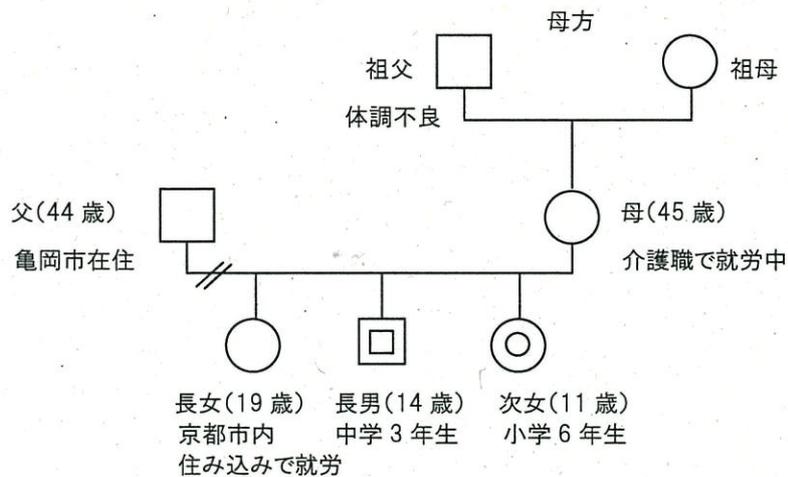
こども未来課 家庭相談員 石村 和代
(資料1～3頁の説明者)

子どもの貧困について 対応状況 説明資料

【支援家庭 A ケースの状況】

《ケースの概要》

＜ジェノグラム：家族構成概略図＞



＜概要＞

- 本家庭は、母(45歳)、長女(19歳)、長男(中学3年生、14歳)、次女(小学6年生、11歳)の四人家族で、ひとり親(母子)家庭。
- 長女(19歳)は、高校卒業後、京都市内において住み込みで就職。
- 父母は、平成27年6月末に離婚。母子での生活(ひとり親家庭)が始まる。
- 母(45歳)は離婚当時、気持ちの落ち込みが激しかったため、ひとり親家庭支援制度の申請手続き時は長女(19歳)が付き添い、母(45歳)をサポートしていたとのこと。
- 平成27年12月、次女(11歳)が通う小学校から、
【次女(11歳)の欠席が続いている。家庭に架電するものの、「現在使われていません」とのアナウンスが流れ、連絡がとりづらい。】
【小学校から家庭訪問をしても不在が多く、電気もついていない状況。母子の安否確認がしづらい心配な家庭。】
と、子育て支援課(現 こども未来課)に情報提供される。
- 平成29年1月、長男(14歳)が通う中学校から、
【1年生の2学期から不登校になったが、その後、親と連絡がつかず深刻な状況。】

【長男(14 歳)と担任はメールでやり取りできているが、長男(14 歳)本人が返信しているかは不明。母(45 歳)には中学校を避けている様子がみられ、三者面談もできない状況。】

【長男(14 歳)の担任が毎日、家庭訪問しているが、応答がなく、3 回に 1 回程度、次女(11 歳)が対応。『長男(14 歳)を出して』と言うものの、次女(11 歳)は「長男(14 歳)は寝ている。母(45 歳)はいない」と答えるのみで、長男(14 歳)に会えない状況が続いている。】

と、子育て支援課(現 こども未来課)に情報提供される。

- 中学校から、子育て支援課(現 こども未来課)に対して、本家庭へのアプローチを依頼される。
- 小・中学校は、長男(14 歳)と次女(11 歳)に同様の状態が続く場合、【教育ネグレクト】であるとの見解であった。

〔家庭状況の経過〕

〔小学校の情報〕

- 母(45 歳)は朝 7 時頃、通勤のため家を出て、夜 9 時頃に帰宅。在宅介護施設で、派遣待遇で働いている。
- 母(45 歳)による次女(11 歳)の送り出しがなく、次女(11 歳)は登校が出来にくい。登校しても大幅に遅刻してくる。
- 平成 29 年 2 月、小学校と母(45 歳)の間で連絡がつくようになってから、次女(11 歳)は遅刻はするが、継続登校できるようになる。
- 長女(19 歳)の就職が京都市内に決まった結果、寮生活のため、家を出ることとなる。本家庭において長女(19 歳)の果たす役割が大きかったため、今後の影響が懸念される。

〔中学校の情報〕

- 長男(14 歳)が不登校になった原因は、父母の離婚と思われる(長男(14 歳)が中学 1 年生の夏に離婚)。
⇒ 長男(14 歳)は、父母が離婚するまでは登校できており、活発な生徒であった。
- 母(45 歳)は、福知山市の介護施設で勤務している。
- 長女(19 歳)は、高校卒業後、住み込みで京都市内に就職し、家を出ている。長女(19 歳)が家を出た影響は大きいと思われる。
- 長男(14 歳)は、弁当不要の短縮授業の日は登校できている。弁当を持たずに来た日に、中学校からパンを提供しようと声を掛けるも、お金がいることを気にしているためか「要りません」と断り、食わずに過ごすことが多かった。
⇒ 長男(14 歳)なりに家計を気にしている様子が見て取れた。

〔小学校の追加情報〕

- 次女(11 歳)の不登校は回避できたが、給食を大盛りになれば完食することから、おそらく朝食を食べていないと推測される。
⇒ 母(45 歳)は、朝食の準備をせずに出勤していることが推測される。
- 次女(11 歳)は、同じ様な服をローテーションで着てくる。たまに臭うこともあり、家庭で入浴できていないと推測される。
- 母(45 歳)が早朝に出勤するため、次女(11 歳)を起こし、朝食を食べさせ、送り出すことができていない。学校が次女(11 歳)と連絡を取り、家庭へ行って次女(11 歳)を起こすなど、登校促しをしている。
- 次女(11 歳)の気分がのらず登校できない日は、母(45 歳)が食事を作り置きしている様子は無く、買い置きのインスタント麺を食べている様子。たまに現金が置いてあると「スーパーへ弁当などを買いに行く」と次女(11 歳)が話している。
- 給食費の滞納が 9 万円程度に膨らんでいる。長男(14 歳)と次女(11 歳)、それぞれの学校で主要保護家庭の申請をしている。学期末で費用の精算を行い、残額は保護者に返金されることになるため、母(45 歳)は、長男(14 歳)の中学校で精算後に生じた残金を、次女(11 歳)の給食費の返済に回すなど、やりくりして凌いでいる様子が見て取れる。
- 母(45 歳)は、経済的に家庭を支えることに必死で、家事ができる状態ではなく、長男(14 歳)と次女(11 歳)に目が向けられないと推測される。
- 関係機関(教育委員会、中学校、小学校、子育て支援課(現 こども未来課))で協議の場を持ち、家庭の課題整理及び今後の支援の方向性を探ることとなる。

《 本梅・東本梅保育所の統合について 》

1. 統合に関する平成28年度の市の動き

継続的な議論	7～8月	保護者・自治会説明
	10月15日	東本梅町民説明会
	1月17日	わがまちトーク開催
	2月	「東本梅保育所を考える会」発足
	3月4日	東本梅保育所保護者会説明・協議
	3月21日	「東本梅保育所を考える会」説明・協議

2. 市の考え方について

「亀岡市公立保育所再編整備検討会議報告書」の考え方をひきつぎ、再編整備基本要件(4要件)※を満たす保育所を再編対象とし、本梅保育所と東本梅保育所の統合を考えています。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度以降
東本梅保育所	保護者・地元説明	保護者・地元説明 年度末閉園予定	統合予定 東本梅保育所解体 又は、利活用
本梅保育所	実施設計 保護者・地元説明	耐震工事 屋根改修等工事 エアコン取付工事	

- ※ ①4・5歳児1クラス10人未満 ②将来的に子どもの増加見込が低いこと
③保育環境の改善が困難 ④他の保育所の受入が可能

3. 入所者数について

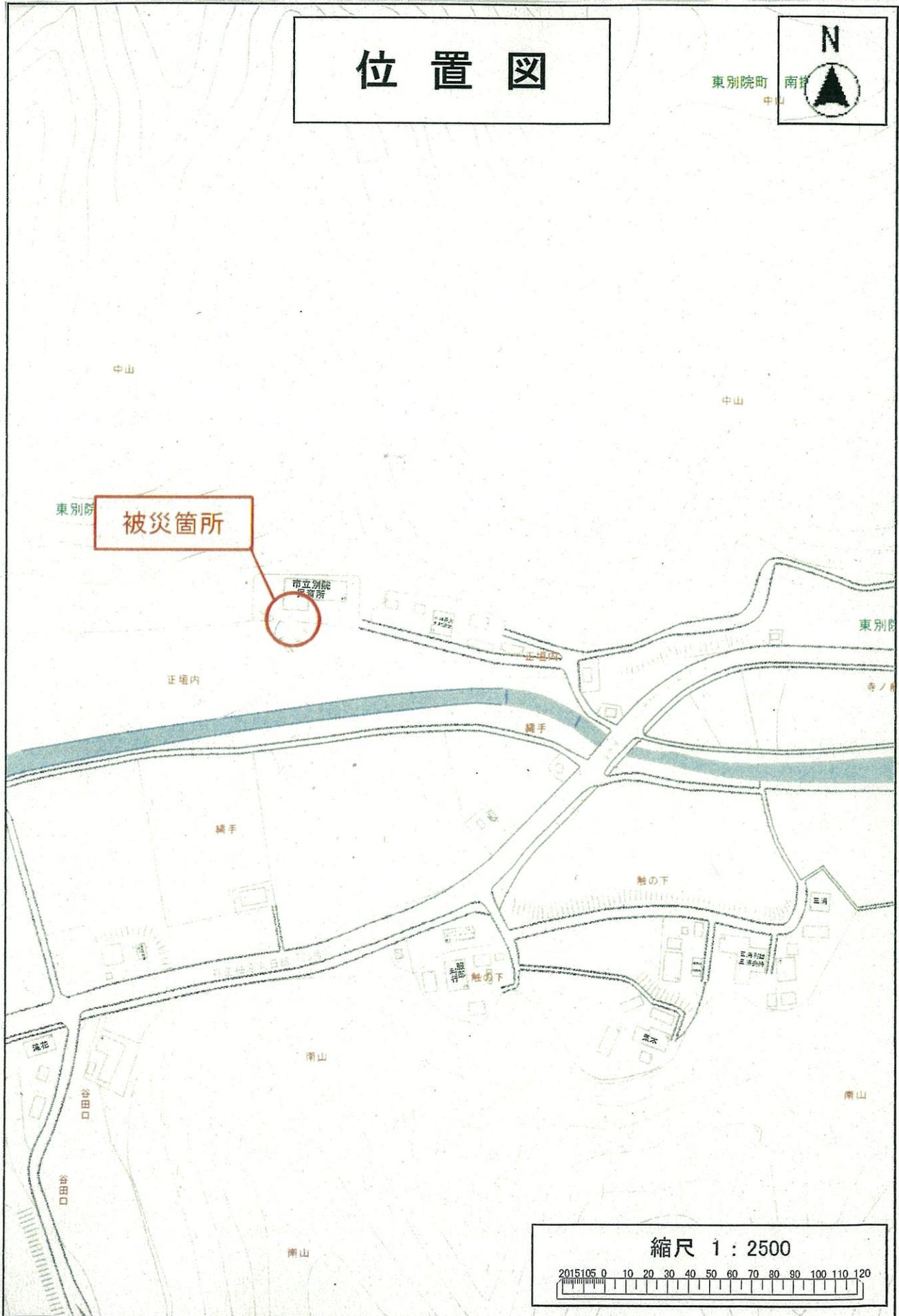
[東本梅保育所入所者数の推移]

各年度4月1日時点 単位:人

	定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
平成24年度	70	0	3	10	9	6	7	35
平成25年度	70	0	2	4	11	10	5	32
平成26年度	70	0	1	3	7	10	10	31
平成27年度	70	0	1	4	4	8	10	27
平成28年度	70	0	0	6	5	5	8	24
平成29年度	70	0	1	1	7	6	6	21

[本梅保育所入所者数の推移]

	定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
平成24年度	120	0	3	11	7	17	8	46
平成25年度	120	0	4	6	11	7	13	41
平成26年度	120	0	2	3	7	14	8	34
平成27年度	120	0	4	3	6	8	14	35
平成28年度	120	2	5	6	8	6	8	35
平成29年度	120	2	4	5	3	10	7	31



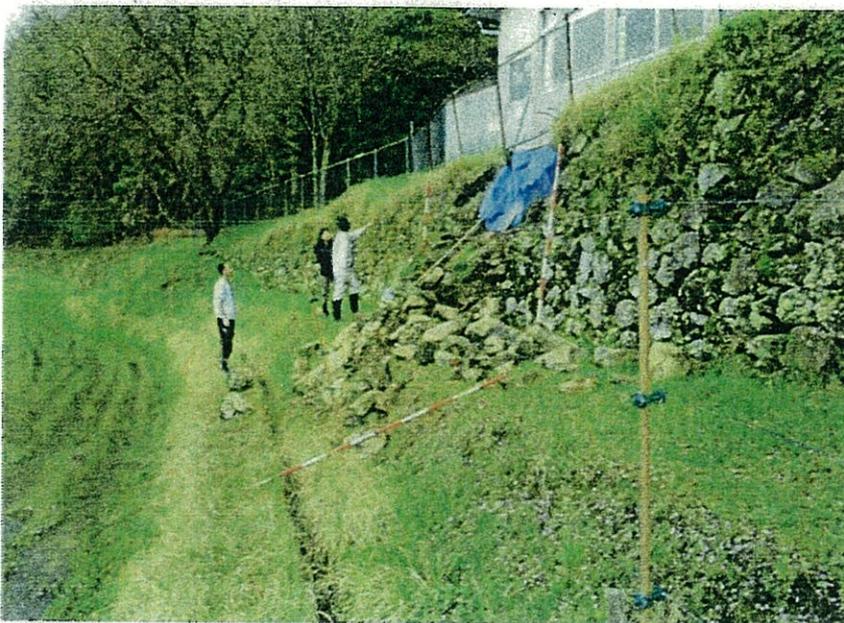


No. 1

東別院町南掛地内
別院保育所

全景

平成29年4月18日

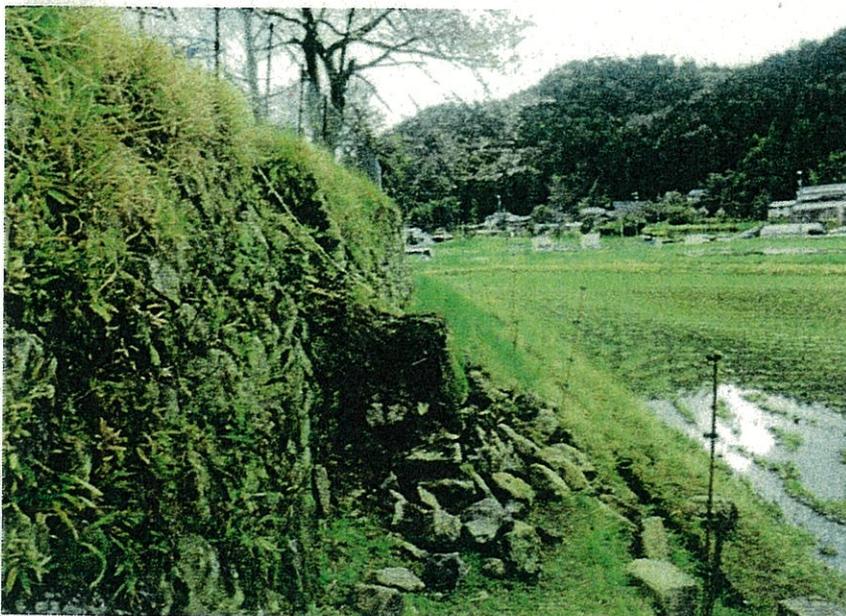


No. 2

東別院町南掛地内
別院保育所

東側より

平成29年4月18日



No. 3

東別院町南掛地内
別院保育所

西側より

平成29年4月18日



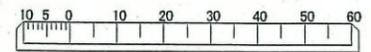
別院保育所

排水管

石積み復旧箇所

工事車両の進入

縮尺 1 : 1500



平成29年度 環境厚生常任委員会行政視察（案）

視察日	市	人口	面積	項目
5月18日(木)	栃木県 小山市	166,594	171.76	<ul style="list-style-type: none">・子どもの貧困について・子どもの貧困撲滅5カ年計画について
5月19日(金)	東京都 足立区	680,670	53.25	<ul style="list-style-type: none">・子どもの貧困について・未来へつなぐあだちプロジェクトについて